

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	(有)ホスピタルサービス グループホーム清水三保の
(ユニット名)	3号館
所在地 (県・市町村名)	静岡県静岡市清水区
記入者名 (管理者)	中 村 敦 子
記入日	平成 20年 7月 15日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を掲げ、利用者の方がその人らしく安心して暮らせる「第2のすまい」を目指している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々、理念の実践に向け、管理者・職員一同取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族・地域の人々との交流の機会を設けるように努め、地域の中での施設の在り方を理解していただけるよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	天気の良い日は公園の散歩に出かけ、隣近所の方々との挨拶や会話をし、常にふれあいの場をもてるように心がけている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭り等に参加させていただき、地元の人々との交流に努めるようにしている。	○ 今後も地域の方々に声をかけていただき、参加させていただきたいと考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議等を通して、自治会・民生委員の方々の意見を伺うようにしている。	○	運営推進会議等を通し、高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、地域に貢献できることがあればどんどん参加していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価を実施する意義を理解するとともに、指摘された点については、改善に取り組む努力を行っている。	○	評価における改善点は真摯に受け止め、今後の運営に活かし、職員一同改善に向け取り組む努力をするよう心がける。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議における意見を参考にサービス向上に努めている。	○	今後も運営推進会議に積極的に参加し、施設のサービス向上にさらに努めたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	常に市町村担当者とは連絡を取り合い、密に連絡を取っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の方で何人か利用されている方もいることから、身近な問題として捉え、制度の活用・支援に努めている。	○	成年後見制度等について更なる知識を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の生活の中で、決しておこることのないよう常に注意を払い、虐待の防止に努めている。	○	機会があれば、講習会等にもどんどん参加して知識を深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明を行い、利用者と家族の不安や疑問をひきだし、それに対し再度説明し、理解を図る。	○	わかりやすい丁寧な説明をする。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者からの意見を受け入れ、対応に心がけている。	○	介護相談員が月に一度来所し、利用者が気軽に相談できる場を設けている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは、定期的及び個々に問題・変化が起きた際には電話や書面にて報告するようにしている。また、面会の時等に利用者の状況報告を行うようにしている。	○	利用者の日常の様子や金銭利用の報告等を行っている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見設置箱を設け、苦情等を受け付けた時には随時対応し、原因を探り、検討・改善する。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コミュニケーションを図るよう心がけ、職員の意見・要望を取り入れられる機会を設けるようにしている。	○	職員が積極的に意見を言える環境づくりを心がける。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じた対応ができるよう勤務のローテーションをし、利用者の状態にあわせ対応できるよう努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日常、他のフロアーとのコミュニケーションを図っているとともに、顔馴染みである為、ダメージは少ないと思われるが、利用者にとって少しでも不安な気持ちがおこらないような配慮を心がけている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会が設けられ、実践に役立つ取り組みや、教育補助費等の支給を行い、個人のレポートの提出を行っている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流する機会をもち、交流活動を通じ、サービスの質を高められるような取り組みを行っている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士の人間関係を把握するとともに、福利厚生を充実させ、悩みを言えるような環境づくりを目指している。	○	ストレス軽減に向け、話し合いの場を持つよう心がけている。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の努力を認める機会をつくり、向上心を持って働けるような環境づくりに努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者や家族の思いを受け止め、信頼関係を築き、安心していただけるように努めている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	どのような対応ができるか事前に話し合いをし、家族とも常に連絡を取り合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を見極め、他のサービスも常に話し合いをしながら、検討・対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新しいサービスをいきなり開始すると戸惑いや不安になる為、徐々に慣れていただけるよう本人や家族と相談しながら行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のことをよく知り、一緒に過ごす事で、職員が今まで気がつかなかった事や、新しい発見があり、逆に利用者の方より学ぶ事も多い為、さらに発展した関係を築いていけるよう努めている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力のもと、本人の昔の事を聞いたり、施設での様子等を報告することにより、家族と一緒に支えていく関係づくりを築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関わってきた経緯を知ること、本人・家族・職員の共通の話題を持つことができ、今後もより良い関係が築くことができるような支援を行っている。	○	本人・家族より話を聞く機会を今後もさらに設けていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所・時間がとれるよう努めている。	○	家族・以前いた施設・長期入院されていた病院への受診等を通し、できるだけそのような時間がとれるように努めている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとり個性・性格が違う人の集団生活の中で、孤立しないよう、少しでも共同生活が楽しいものになるよう日々努めている。	○	居室にこもることなく、ホールへ来てソファに座ったり、テレビを観たり歌をうたったりと、利用者同士の関わりを持ちながら日々の生活を送れるよう支援している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても関わりを断ち切ることなく、随時連絡が入れば利用者の現状や家族の心情を聞き、つきあいを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望はそれぞれあり、できるだけ本人の希望に添えるような生活をしていただけるよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の暮らし方、家族や馴染みの方に話を伺いながら、これまでの暮らしの把握を行うようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの状態を総合的に把握し、その人に合ったサービスを支援するように努めている。	○	日々の生活の中で、様子・状態を把握し、常に変化に応じた対応に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族・必要な関係者と話し合い、一人ひとりに合った介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に見直しを行い、変化が生じた場合は、本人・家族・必要な関係者と話し合いの場を持ち、現状に即した新たな計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の出来事・変化等、個別に記録し、職員間で情報を共有し、ケアの実践に役立っている。	○	個別記録には病院受診・体調不良の記載だけでなく、日々の生活の出来事等も記載し、職員間での情報の共有を図っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能性を活かした柔軟な支援も職員間で話し合いながら、本人の出来る可能性を伸ばせるような支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要性に応じて、諸関係機関等に協力していただきながら、防災訓練の実施・敬老会・クリスマス会等の行事の時には、ボランティアの方をお願いしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの活用支援は、今のところ利用していない。	○	今後地域のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用できるか検討していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議や地域包括センター等の講習会に出席している。	○	今後も機会があれば積極的に参加したい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を聞きながら、通常の受診はもちろんのこと、精神・医療面においての相談にもものっていただき、いつでも適切な医療が受けられるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医が認知症専門医であり、随時相談を行い、適切な診断・治療が受けられるよう支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	担当医同様、担当医が不在の時などは特に、利用者の状態を相談し、日々の健康管理のアドバイスをいただいている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	職員が利用者の入院先へ足を運び、医師・看護師に現状を伺い、常に医療機関とは連携を取り合い、連絡・相談を密に行っており、その結果を他の職員にも報告し、情報の共有を図っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について、本人・家族・かかりつけ医と話し合いを密に行い、全員で方針を共有している。	○	家族の協力のもと、不安を取り除き、苦痛の軽減をはかれるように努めている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	一つのチームとして今後の変化にすぐ対応できるよう、よく話し合い準備を行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	不安・ダメージを少しでも取り除けるよう、家族及びケア関係者間において十分な話し合い・情報交換に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人権を尊重し、傷つけるような言葉かけ・ケアや個人情報の取り扱い等を行っていない。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりの訴えや希望に耳を傾け、できるだけ自己決定ができるような状況をつくるようにしている。	○	意志疎通の困難な利用者や、なかなか意志表示ができない利用者に対しても、身振り・手振り・筆記等を利用し、少しでも希望に添えるような働きかけを行っている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ぬり絵や紙工作・計算・歌など、その日にやりたい事を聞いて、各個人の時間を有意義に過ごしていただき、一日を日々穏やかに過ごせるよう支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2ヶ月に一度、床屋さんが来所し、本人の希望の髪形にしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間を皆さんとても楽しみにしておられ、支度や片付け等、積極的に手伝っていただいている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	10時・15時のお茶の時間を一つの楽しみ・くつろぎの時間として利用者の方に喜んでいただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、本人の申し出以外にも定時にトイレ誘導を行い、排泄の失敗をできるだけ少なくするよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を楽しみとしている方が多く、日曜日を除き、毎日入浴しているが、体調がすぐれない方や、拒否される時など、本人の希望・意思を尊重するようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	季節毎に寝具を変えたり、安眠できるよう天気の良い日には布団を干したりと、常日頃気をつけるように心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事の手伝いをしていただいたり、外に花・植木等を置き、水やりをし、植物の成長を楽しまれている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買いたい物・必要な物・日用品等、各個人毎に購入しているが、お金の管理は施設にて行っている。	○	状況に応じ、一緒に買い物に出かけ、自分で品物を選ぶことにより買い物をする楽しみを感じ取れるような支援を行っている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は毎日散歩をし、季節の移り変わりや小動物(犬・猫)にふれあったりしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	地域の祭り・正月の初詣・七夕等へ出かけている。時々、家族と一緒に外出されることもある。	○	家族との交流も大切にしたいと考え、一緒に外出を楽しまれたり、病院の受診等もお願いしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・暑中見舞い等のハガキを出して家族からの返事を楽しみにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問・面会していただけるような声かけをし、家族の方たちと一緒に過ごす時間を大切にしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	個人の自由を尊重し、怪我のないよう見守りを行っている。鍵をかける方も中にはいますが、ほとんどの方が鍵はかけていません。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常にプライバシーに配慮しながら、利用者の様子・観察を行うようにし安全確保に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	常に各居室を掃除したり、季節毎の衣類・寝具の入れ替え時に、持ち物等に気をつけ、一人ひとりの行動を把握しながら、危険を防ぐ配慮を行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年2回の防災訓練を行ったり、一人ひとりの行動を常に把握し、事故防止につなげている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	グループ内の教育課程において、講習会等があり、各自勉強している。	○	今後も機会があれば、多方面においていろいろな講習会に参加し、日々の備えに役立てたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署と連携し、防災・防火訓練を行っている。	○	地域の住民の人々の協力を得られるような働きかけを行っていききたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族とも相談の上、それぞれの身体状況において対応し、利用者にとって最善の方法を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝血圧測定を行っており、その他、体調の変化・異変があれば職員間で速やかに情報を共有し、対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬している薬の内容は個人ファイルに綴じてあり、職員は理解したうえで、体調の変化に応じて常に担当医と相談し、速やかに対応している。	○	薬の内容・用法を理解し、誤薬防止の為に、服薬時には見守り・介助・確認を必ず実行している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	身体を動かすこと、たとえば散歩や体操等を行っている。食事の面では野菜を中心に飲食物の工夫に心がけている。	○	便秘の症状が改善されない場合は、かかりつけ医と相談の上、家族の了承のもと内服薬にて様子を見ている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて、食後・入浴時・就寝前・起床時に口腔ケアを行っている。	○	自分で出来る方には声かけ・見守りを行い、困難な方には介助にて口腔ケアの支援を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量のチェックを行い、10時・15時のお茶の時間にも水分補給を行っているほか、一人ひとりの状態に応じた対応を心がけている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	グループ内での講習等で知識を習得したり、ケアを行う時には使い捨てのビニール手袋を使用したり、石鹸で手洗い・消毒を行っている。常にかかりつけ医にも相談・アドバイスをいただきながら対応している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器・調理器具・布巾等、毎日消毒している。冷蔵庫のチェックもこまめに行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前にプランターを置き、四季の花々を利用者の方と一緒に植え替え、水やりを行いながら、季節を感じられるような工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室・トイレ等引き戸やカーテンにより個別の空間ができ、プライバシーを確保している。廊下・居室には、季節ごとの飾りつけを利用者と一緒にを行い、行事ごとの写真や利用者の作品等も展示している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはテーブルやソファを配置し、一人ひとりが好きな場所に腰掛け、リラックスした時間を過ごせるような空間づくりをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地良く過ごせるように使い慣れた家具や物を置き、安心した生活を送れるよう心がけている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の清掃の際には必ず窓を開け、天気の良い日には布団を干し、シーツを洗い、常に衛生管理に気をつけている。空調機器使用時には、温度調節をこまめに行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・居室内・階段等、建物内部には手すりが設置されており、歩行練習もでき、自分のペースにあわせてリハビリもできる環境である。廊下も広く、車椅子でも自由に動けるようになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりが自分の出来ることを行い、職員はそれを見守り・支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外にベンチを配置することにより、天気の良い日にはベンチに座りおしゃべりをしたりと楽しめる空間があり、又、プランターの花の植え替えや水やりを職員と一緒にしている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の
		②利用者の2/3くらいの
		③利用者の1/3くらいの
		④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある
		②数日に1回程度ある
		③たまにある
		④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と
		②家族の2/3くらいと
		③家族の1/3くらいと
		④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用されている方々は、皆さんそれぞれ一人ひとり様子・状態が違います。そのような一人ひとりの状態を常に職員が把握し、グループホームという施設でありながら、家庭の延長のような「自分の家」と思っただけの安心できる居心地の良い空間・場所・ケアを職員一人ひとりが日々心がけるように努めています。立地的にも隣が公園である為、四季折々の恵まれた環境の中、直接外気に触れることにより季節を肌で感じ取ることができ、とてもよい刺激となり、利用者の方々の表情が明るく、とても穏やかです。また地域・ご近所の方々と直にふれあうことにより、自分がこの地域の一員であることも感じとれることと思います。常にご家族の方とも連絡を取り合うことで、本人・家族・職員が一体となり、利用者の方が一日一日・日々の生活を一番良い状態で過ごせるような環境づくり・ケアに結びつくよう努めています。